

令和6年度 第2回 福井県長期ビジョン推進懇話会 議事録

- 1 日 時 令和6年8月22日(木) 13:30~15:00
- 2 場 所 国際交流会館 3階 特別会議室
- 3 出席委員 委員名簿のとおり
- 4 事務局 福井県知事 杉本 達治
事務局:福井県未来創造部 部長 武部 衛
// 副部長 田中 秀和
// 未来戦略課 課長 松村 仁史 他

5 配布資料 別添のとおり

6 議事の経過および結果

(1) 開会

- ・知事あいさつ
- ・座長あいさつ

<座長あいさつの概要>

[座長]

- ・県民の共有できるゴールがビジョンの骨格であり、自分事にするしかない。
- ・様々な媒体による福井の発信を集約し、読みやすいようデザイン管理をし、県のホームページで出すなどすると、自分事として考えてもらえるのではないかと。
- ・一人ひとりの県民のふるさと愛に燃える活動をサポートし、伝えることを徹底してやるべき。各団体から要望される取組みのほとんどは県ですでに実施しているが、それが十分に伝わっていない。

(2) 事務局説明

【資料2】により事務局から説明

(3) 意見交換

<出席委員の発言概要>

[委員]

- ・チャレンジを広げていく中ですぐにうまくいかないこともあるが、そういうところも理解が必要。
- ・投資をすることにより、利益だけでなく様々な地域活性化の効果が生まれてくるという循環をどう作っていくかを一緒に考えていけるとよい。

[委員]

- ・多様性は違いがあることをそのまま認め合うことで、個の尊重が基本にある。
- ・福井には良い伝統も残っているが、しきたりや押しつけも強く、住み続けることの阻害要因

にもなっているので、価値観の変化に対応する形で、誰もが生きやすい社会を作ることが大事

- ・女性活躍、男性の家庭進出という言葉は、ゆくゆくはなくなった方が良いと思う。男性も女性も誰もが自分らしく、自分の役割を社会で果たしていくことがダイバーシティの実現。固定化している役割を見直し、個の尊重が本質であることを学習できる機会があるとよい。

[委員]

- ・義務教育の中で学力に固執していることが多様性、寛容性を阻んでいる。ないところに新しいものを発想し、検証し、再チャレンジすることで企業は大きくなるが、学力に特化していくと、発想できる子を育てることが難しい。
- ・多様性のある教育として、技術職や学力以外の知識・技術に関する教育を広げてほしい。そのためには、大学進学だけを目標にするのではなく、個を育てる、スキルを育てるという教育ができればよい。
- ・労働者のスキルを高めるために、企業だけでなく、学校の教育段階でも人材育成を視野に入れたプログラムを取り入れるべき。

[委員]

- ・点数評価ができるものはAIができる時代であり、人間にできることを伸ばさなければこれからの時代は通用しない。
- ・発想力やディベートの力を評価するという教育に先生の方が付いていけないのではないか。AI が力をつけていることを認識し、教育を変えるための話し合いに結び付けることが大切
- ・歴史は年代の暗記ではなく、地域愛を育てるための歴史教育として、先人がどういう思いを地域に注ぎ込んだのかを考え、体感してもらう授業ができないか。

[委員]

- ・リソースの配分が最適化されていない。もともと個性や多様性は持っていたが、最近になって表れてきただけであり、個を尊重しながら、それをどう最適に配分するかが大切
- ・シルバー人材の方が駐車場案内をするのではなく、子育てのプロとして自分の子どもではない子どもを育てるといったような発想の転換が必要

[委員]

- ・友達やシルバー人材も子どもの見守りができる。子どもは一人で育つのではなく、コミュニティの中で育つので、コミュニティが大事
- ・特定技能や大学を卒業した外国人は、スキルを持っているにもかかわらず、やりやすい仕事にしか就けていない。日本語があまりできないなら、日本語を教え、日本の社会に入れるようにするべき。

[委員]

- ・長期的な視点に立つべきであり、目先の数字にとらわれない見方が大事。KPIで数値化することも大事だが、費用対効果という形ばかりを追うと評価しづらく見えにくくなってしま

う。

- ・何か 1 つをやればよいのではなく、全てが複合的につながっているのだから、それがどうつながっているかというデザインをわかりやすくすべき。
- ・働き方、生活の仕方が多様化し、育児休業も多様化が進んでいく中で、誰にとってどのようなかということと、目先の数字に一喜一憂しないことが大事

[委員]

- ・世代、市町、職業などの違った対象同士をかき混ぜていくべき。そういう人がいることを認識し、知るということが大事
- ・特に子育ては当事者にならないとわからない。事前に知れていればこんなことにならなかったということがたくさんある。学生と親子がふれあい、学生に子どもを見てもらったり、シニア層に子どもを見てもらったりする場を作ることが大事
- ・流行りを追いかけると福井らしさがなくなる。「福井はこうなんだ」という方向性を決め、独自性を貫いてくべき。人口減少していく中で、何を残し、何をなくすべきかを見極めるためにサイクルを回していくことが大事

[座長]

- ・多様性は「みんな違ってみんないい」ということであり、変えないことや、こうでなくてはいけないということが問題
- ・人口減少と言われているが、一人ひとりが3人分くらいの力を発揮すると、すごく力のある県になる。

[委員]

- ・相手の気持ちを汲むコミュニケーション能力や、忍耐力、責任をもってやり遂げようとする力など、非認知能力が育っていない。小学校、中学校、高校と上がるにしたがって、学力の方に偏ってしまう。社会人になった人材が責任をもって、困難を乗り越え、達成感を感じられるよう、その素地を育てるための教育が大事
- ・教育現場だけでなく、家庭教育も大事であるが、家庭で抱え込むのではなく社会で育てていくべき。福井モデルとして道筋を示せるとよい。

[委員]

- ・選ばれる福井の部分は残して、もっとどんな人もチャレンジできて、その人らしさが活かせる福井に変わっていけば、魅力が上がり、UI ターンも促進できるのではないか。
- ・テレワークが広がっているが、地域の方は、仕事は事務所に行くものと思い込んでいる。仕事のやり方が多様になっていることが分かってくるとよい。

[座長]

- ・ワークスタイルやライフスタイルが多様化していることが伝わっていない。行政が時代の構造を示し、このようなワークスタイルやライフスタイルがあることを広報するべき。

[委員]

- ・福井の外でお金を生んでいる人は、福井でお金を生める発想はたくさんあるが、福井で勤めている人は、このような商品、サービスを生めば、福井でお金を生めるという発想がでないため、気づかせてあげる必要がある。
- ・起業家的発想を育てるためのセミナーなどにより、起業家精神を地域の一人ひとりにもってもらうと、福井で夢を描ける。
- ・定年退職を迎えたスキル、人脈を持っている方が、二拠点生活の一つとして福井を選び、行政とともに何かをやって成功事例を挙げていくことが良い。
- ・都会以上の生活水準を実現できるというキャッチコピーはすごく良い。子育て環境、自然環境の中で、人の人生全部に関わる体験を福井でならできるといふ謳い文句でUIターンにつなげ、成功事例を作り、見える化して、関心がなかった人を巻き込んでいくことができないか。

[委員]

- ・若い女性が福井に帰ってこないのは大きな問題であるが、企業の役割が大きい。企業の男女の役割分担意識や男性優位の企業文化を変えなくてはいけない。
- ・結婚できない人が増えているのは非正規労働が増えているから。子育てをしていくような世代の正規雇用を増やすということまで踏み込まなくてはならない。
- ・福井の独特の三世帯同居は良い面もあるが、女性の家事負担が大きいので、直していくべき。
- ・資料全体として言葉がきれいすぎて、自分事になってこない。もっと具体的に書くべき。

[委員]

- ・Uターン、Iターンの人が地域と交わり合うことが大事。よその人が加わることによって前から住んでいた人も新しい考えを持つようになるので、地域に溶け込んでいけるようにするべき。
- ・地域で活躍する人を拾い上げ、ロールモデルを作っていくことが大切

[座長]

- ・ロールモデルを皆が共有できる形でどのように出すか。新聞では普通の経験者でない人ばかりが出てくるが、色々な人の情報を平等に全部出して、選べるようにするとよい。

[委員]

- ・閉鎖的、寛容性がないと言われるが、おせっかいが違うふうに伝わり、変換されてしまっているのではないか。
- ・みんな心の中に光を持っているので、人の中の光を見つけに行くようコミュニケーションをするとよい。
- ・その人にとっての生きがいと利他的な生きがいとよい。福井県は「素敵なおせっかいな県」になるとよい。
- ・ウェルビーイング指標は他県との比較ができるので、そういうツールを使うとよい。
- ・安心安全な社会基盤についてももっと議論するべき。

[委員]

- ・今回の資料で子どもに福井に居続けてほしいというニュアンスを強く感じ、違和感を覚えた。外に出て世界にはばたけというくらいのスタンスでいてほしい。そういう人たちがどんどん出てくると、そこにまた人が戻ってくる。
- ・都会以上の生活水準は、本当に福井で実現できると思うが、都会並みの給与水準という方向ではない。
- ・「福井は寛容性が低い」というデータは興味深い。多様性は寛容性を高めていくこととセットで考えていただきたい。

(4) 閉会